

# 新入看護学生に対するエチケット教育の評価 - 2009年度実施報告 -

田原 和美・吉川 洋子・長島 玲子  
高橋恵美子・山下 一也

## 概 要

「島根県立大学魅力ある大学に向けた提案事業」の一環として、「新入看護学生に対するエチケット教育」を実施した。目的は、学生が社会人としてのマナーを身に付け、豊かな人間関係を築くことである。

1年次生の参加者数は、第1コース36名、第2コース90名、第3コース22名であった。全コース参加者は15名であった。各コース終了時のアンケートでは、テーマ設定や内容に関する評価は高く、肯定的な意見が90%以上であった。今後は、内容への興味・関心を高め、参加者を増やすことが課題である。

キーワード：エチケット教育，新入看護学生，マナー

## I. はじめに

近年、医学教育と卒後研修では、医師と患者関係において、「Etiquette-Based Medicine (エチケットに基づく医療)」が提唱され、良いマナーを系統的に教えることが注目を浴びている(Kahn, 2008)。同様に、看護師と患者の関係において、看護技術より看護師の「きちんとした挨拶」が求められている。看護教育におけるエチケット教育の必要性が報告されている(森ら, 2005)。

我々は、学生が社会人としてのマナーを身につけ、豊かな人間関係や信頼関係を築くことを目的として「新入看護学生に対するエチケット教育(以下プログラム)」を実施した。

そこで、今回2009年度の本プログラムの概要と学生アンケート結果をまとめ、基礎資料としたいので報告する。

## II. 目 的

2009年度本プログラムの成果と課題を明らかにすることである。

### <用語の定義>

「エチケット」とは、自分以外の人に接する時の心構えや態度とした。

「エチケット教育」とは、自分以外の人に接する時の心構えや態度を身につけるために行う教育とした。

「マナー」とは、社会一般的な礼儀・約束事こととした。

## III. 教育方法

### 1. 対象

3年課程A短期大学に2009年度入学した看護学生93名。プログラムの参加は任意である(第2コースは基本援助方法論の講義内で行った)。

### 2. プログラムの概要

#### ①第1コース(写真1.2)

日時:平成21年4月25日 13:30~16:30(180分)

テーマ:基本的マナー, 対人マナー

~豊かな人間関係を築くために~

ねらい:人間関係における基本マナーとコミュニ

ケーションスキルを身につける

方法:講義・演習

内容:マナーの重要性



写真1 1コース [基本的マナー, 対人マナー]  
講義の様子



写真2 1コース [基本的マナー, 対人マナー]  
書類を渡す演習



写真3 2コース [こころのコミュニケーション]  
講義の様子



写真4 2コース [こころのコミュニケーション]  
気づきの体験学習 (伝える) の様子

人間関係の基本5原則

信頼感の伝わる立ち居振る舞い

講師：JALアカデミー インストラクター

桃田まどか氏

#### ②第2コース (写真3.4)

日時:平成21年5月1日 9:00~12:10(180分)

テーマ:仲間と気づき学ぶ

『こころのコミュニケーション』

ねらい:頭で理解するだけでなく、自分の体験を通して、自分の生き方や人との関わり方など対人関係の問題について気づき・学ぶこと

方法:講義・演習

内容:コミュニケーションとは

「気づきの体験学習」みる, きく, 伝える

講師:鳥取大学医学部 准教授 高塚人志氏

#### ③第3コース (写真5.6)

日時:平成22年3月8日(月) 14:50~18:00  
(180分)

テーマ:魅せるパーソナル・プレゼンテーション  
ねらい:信頼される自己表現の基本的考え方と  
技術を獲得する

方法:講義・演習

内容:パーソナル・プレゼンテーションを考  
える個性と魅力とイメージ(第一印象)  
信頼される話し方と立ち振る舞い(マ  
ナー)  
セルフ・プロデュースを身につける

\*当初,10月頃までに修了予定であったが新型  
インフルエンザの流行に伴い,第3コースの開  
催を遅らせることとなった。

#### ④修了証の授与(写真7)

第1コース~第3コース全てに参加した者  
に,鳥根県立大学短期大学部出雲キャンパス副  
学長から修了証授与された。



写真5 3コース [魅せるパーソナル・プレゼンテーション]  
セルフプロデュース演習①



写真6 3コース [魅せるパーソナル・プレゼンテーション]  
セルフプロデュース演習②



写真7 修了書を手にした学生の様子

い、4. やや賛成、5. まったく賛成』の5件法で行った。A項目とB項目あわせて、正項目の合計得点から逆転項目の合計得点を引き算し算出することで間人度得点が導き出される。得点が高いほど間人度が高いことを示す。

## 2. コースについてのアンケート

各コースの評価をする目的で各コース終了後に、テーマ・内容に関する5項目について『5. そう思う、4. ややそう思う、3. どちらでもない、2. あまりそう思わない、1. そう思わない』の5件法でアンケート調査を行った。あわせて「参加した学び」「その他(感想, 意見等)」を自由記載として記入してもらった。

## 3. 分析方法

間人度尺度は、間人度得点を算出し、平均値ならびに標準偏差を求めた。各項目の得点の平均値および間人度得点の平均値をt検定した。t検定を行う際には、逆転項目は逆転処理を行い用いた。プログラム後のデータは、全コース参加したもののみ使用した。

コース毎のアンケートは、テーマ・内容に関し、単純集計をした。

有意水準5%とし、統計ソフトはSPSS for Windows 13.0Jを用いた。

## 4. 倫理的配慮

研究目的・方法、無記名式であり個人が特定

## IV. 評価方法

### 1. 間人度尺度の測定

プログラム前後の学生の人間関係の変化、プログラムの学生への効果を測定するために、既に信頼性・妥当性が検証されている柿本(1995)が開発した「間人度尺度」36項目(逆転項目20項目)を用いた。第1コースに参加申込みをした者には第1コース前日に、第3コースには参加した者に第3コース終了後に調査をした。A項目(逆転項目12項目)は、社会生活に関する自分自身の感情や行動がどのくらい当てはまるかについて問うもので、『1. 全くちがうと思う、2. ややちがうと思う、3. どちらとも言えない、4. ややそう思う、5. そう思う』、B項目(逆転項目8項目)は社会生活に関する意見や態度についてどう思うか問うもので、『1. まったく反対、2. やや反対、3. どちらとも言えな



表1 間人度尺度

[A]	プログラム前(n=37)		プログラム後(n=11)	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
1. 私の場合、知っている人が冷たくされているの見ても本人の問題だから知らぬ顔をしている*	2.73	1.39	2.27	1.35
2. 私の場合、他人の気持ちをあまり考えず、自分の思い通りにすることがたびたびある*	2.76	1.16	2.64	0.92
3. 私の場合、周りが騒いでいても自分の立場を失わず冷静でいられる*	3.38	0.95	3.36	0.81
4. 私の場合、事がうまくいった時、それは誰かのおかげだと思う	3.32	1.20	3.73	1.19
5. 私の場合、他の人たちの関心事には、それほど興味をそそられない*	3.32	1.20	2.91	1.22
6. 私の場合、集まりがあった時ひとりぼっちの人を見ると、話しかけてあげたくなる	3.62	1.30	3.36	1.29
7. 私の場合、居合わせた他の人達と同じような気持ちになりやすい。	2.89	1.02	3.00	1.00
8. 私の場合、まわりの人が悩んでいても、わりあい平気な顔をしていられる*	2.81	1.22	2.64	1.36
9. 私の場合、困っている人を見ると、その人の気持ちが痛いほどわかるので、何とかしてあげたいと思う	3.27	1.26	3.00	1.18
10. 私の場合、何かするとき、あまり人の手を借りようとは思わない*	3.14	1.21	3.27	1.10
11. 私の場合、よい結果が出るように、人をあてにせず自分自身でやることにしている*	3.32	0.91	2.91	0.94
12. 私の場合、自分の権利は遠慮なく主張している*	2.97	1.01	3.00	1.18
13. 私の場合、これまで困難なことに出くわしても何とか自分一人の力で切り抜けてきた*	2.59	1.55	2.00	1.41
14. 私の場合、他人にどう思われようとかそれにかまわず決断することになっている*	2.86	1.27	2.64	1.29
15. 私の場合、どちらかという和我が強いほうである*	3.22	1.13	3.36	1.12
16. 私の場合、初対面の人とでも、すぐに親しくなれる	3.32	1.42	3.18	1.08
17. 私の場合、初対面の人からでも、すぐに信頼してもらえる	2.89	1.07	3.27	0.90
18. 私の場合、困っていると、いつでも誰かが助けてくれる	3.16	0.90	3.36	1.21
19. 私の場合、人とつきあう時、自分に役立つようなつきあいしがない*	2.57	1.32	2.18	1.08
20. 私の場合、相手の立場に立ってものを考えることにしている	3.43	1.34	3.82	1.25

[B]	プログラム前(n=37)		プログラム後(n=11)	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
1. 親身になって助け合えなければ社会生活は成り立たない	3.78	1.42	4.18	1.17
2. 親しくつきあえる人がいなければ、毎日の生活が味気ないものになってしまう	3.59	1.62	4.18	1.40
3. 他人の意見に頼らず、自分ひとりの判断で事を決めたほうがよい*	2.84	1.14	2.64	0.81
4. どんな人とも、誠意をもって接すれば通じ合えるものだ	3.49	1.30	3.45	1.29
5. 社会生活に必要なのは、自分のしたいことや欲しいものを遠慮せずはっきり言うことだ*	2.84	1.09	2.91	1.04
6. 真っ先に自分のことを考えるからといって、それはさほど非難されることではない*	2.97	1.21	3.00	1.00
7. 相手が自分の役に立たなければ、つきあいを続けていても意味がない*	1.92	1.30	2.18	1.40
8. 他人のいうことはそう簡単に信じられるものではない*	3.00	1.08	3.36	1.21
9. いったん知り合いになれば、その人との縁は簡単に切れるものではない	3.16	1.14	3.64	0.92
10. 他人から少しでも干渉されるのはいやだ*	2.92	1.04	2.82	1.08
11. 社交的な宴会に出るのは、仕事などのためであって、喜んで出ようとは思わない*	2.81	1.17	2.73	1.56
12. 相手が自分にとって役立つ人かどうかは問題ではなく、その人とのつきあいそれ自体を大切にしていきたい	3.81	1.51	4.45	1.04
13. 他人との間をうまくやっつけていこうと思うのも、つきつめてみれば我が身が大切だからだ*	3.08	1.04	2.82	0.98
14. 自分をさらけ出したほうが、かえって相手とうまくやっけて行けるものだ	3.57	1.32	3.36	1.03
15. 自分一人がどう生きるかということより、みんなと一緒にどう生きるかということのほうが大切である	3.35	1.16	3.73	1.01
16. 直接の利害めきのつきあいほど人生で楽しいことはない	3.32	1.06	3.09	1.30

\*...逆転項目

表2 プログラム前後の間人度得点

	平均値	標準偏差
プログラム実施前(n=37)	-4.05	19.98
プログラム実施後(n=11)	1.18	18.90

第3コース：22名

全コース参加者：15名

されることはないこと、プログラムの参加は、研究協力を強いるものではないこと、協力の有無によって利益・不利益を受けることがないこと、データは施錠管理シシュレッダーで破棄すること、目的以外に使用することはないこと、まとめた結果は口頭および誌上で発表することを文書と口頭で説明した。回収は回収箱を設置し自主提出とし、提出をもって研究協力への同意が得られたとした。

## V. 結 果

### 1. プログラム参加状況

第1コース：36名

第2コース：90名

### 2. 間人度得点

表1に各項目の質問内容と平均値および標準偏差、表2に間人度得点の平均値と標準偏差を示す。

プログラム前：第1コースに参加申し込みをした38名（当日2名不参加）中、アンケートの協力が得られたのは37名（回収率97.3%）で、平均得点は-4.05（SD±19.98）であった。

プログラム後：全コース参加した15名中、アンケートの協力が得られたのは11名で、平均得点は1.18（SD±18.90）あった。

プログラム後がプログラム前より高値であった。有意差はなかった。

### 3. コースについてのアンケート

各コースのアンケート結果を図1.2.3に示

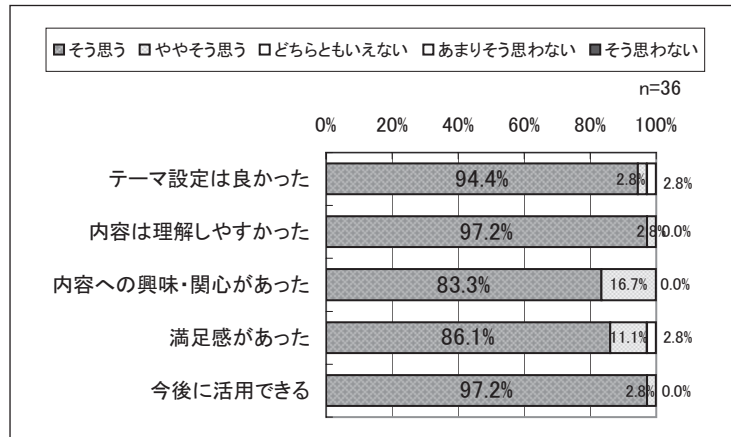


図1 1コース終了後 アンケート結果

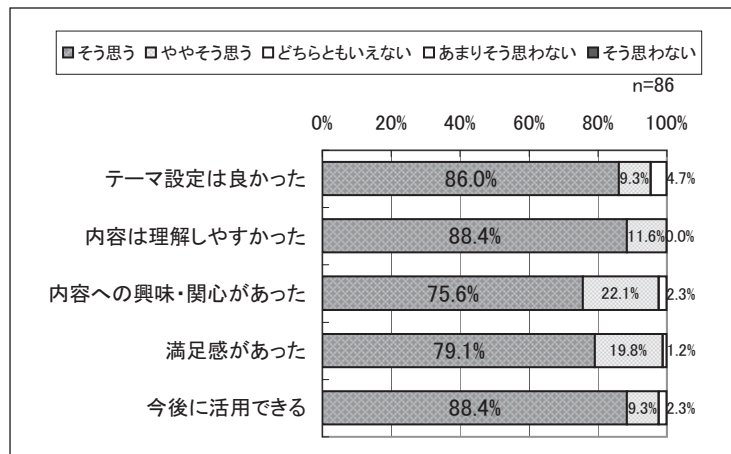


図2 2コース終了後 アンケート結果

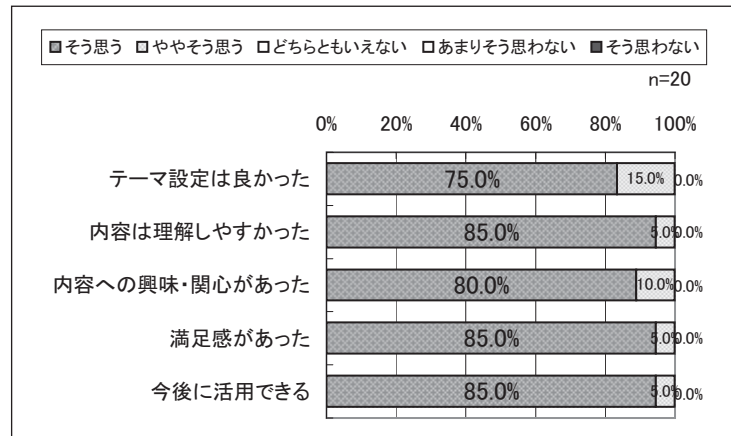


図3 3コース終了後 アンケート結果

す。Cronbachの $\alpha$ 係数は0.803であった。

第1コース終了後：協力が得られたのは36名（回収率100%）であった。肯定的回答「そう思う」「ややそう思う」の割合は、「テーマ設定は良かった」97.2%、「内容は理解しやすかった」100.0%、「内容への興味・関心があった」100.0%、「満足感があった」97.2%「今後を活用

できる」100.0%でいずれも高値であった。自由記載「参加した学び」「その他（感想・意見）」は『学校生活でも使えることが多くあったので、さっそく利用したい。そして今後利用していくことでエチケット・マナーのある人材になりたい』『3時間は絶対長いと思っていましたが、本当に早く感じて、今日来てよかったなって思

いました』等であった。

第2コース終了後：協力が得られたのは86名（回収率95.5%）であった。肯定的回答「そう思う」「ややそう思う」の割合は、「テーマ設定は良かった」95.3%、「内容は理解しやすかった」100.0%、「内容への興味・関心があった」97.7%、「満足感があった」98.8%、「今後に活用できる」97.7%でいずれも高値であった。自由記載「参加した学び」「その他(感想・意見)」は『コミュニケーションというのは、伝え合うだけでなく、相手のことを思いやって、理解しようと歩み寄ることが大切など思いました』『人それぞれ違うこと、立つ場所がちがえば見る所が違ってくる、そんなとき、いかにコミュニケーションが大切かよくわかりました』『1コースと連結する部分があり、コミュニケーションの大切さがさらによくわかった。今まで何気なく見てきたこと、考えてきたことについて振り返るいい機会になった』等であった。

第3コース終了後：協力が得られたのは20名（回収率90.9%）であった。肯定的回答「そう思う」「ややそう思う」の割合は、「テーマ設定は良かった」90.0%、「内容は理解しやすかった」90.0%、「内容への興味・関心があった」90.0%、「満足感があった」90.0%、「今後に活用できる」90.0%でいずれも高値であった。自由記載「参加した学び」「その他(感想・意見)」は『エチケットを守ることで、人からうける印象を少しでもよくなるように努力していきたいです』『自分は相手にどう見られているか自分だけでは分からなかった事も、他の人にみてもらうことにより気付くことができ良かった』であった。

## VI. 考 察

参加者数は、対象93名に対し参加者数は、第1コースは38.7%、第3コースは23.6%であり、参加状況は少なかったと言える。

「コースについてのアンケート」は全コース・全項目において、肯定的回答「そう思う」「ややそう思う」の割合が90%以上であった。また、自由記載も肯定的な意見が多く、各コースのテーマ・内容は良かったと判断できる。

「人間度得点」は、プログラム前に比べてプ

ログラム後の平均値が高かったが有意差は無かった。

富澤（1997）が3年課程短期大学の看護学生に、「現在、短大生活で思っている不安や不満」を尋ねたところ「カリキュラムが過密であること」と45.1%の学生が答えたと述べている。これは、学生生活に関すること等を含む全項目中で一番多かった。A短期大学においても同じ3年課程であり、ほぼ毎日3～5コマ授業が組み込まれていることから、A短期大学の学生もカリキュラムが過密だと感じている学生が多いのではないかと。本プログラムの参加は任意参加（第2コース以外）であり、過密なカリキュラムと感じている中で、沢山の学生に参加してもらうには、学生の興味をかき立てたり、目に見えてメリットがあるプログラムを組み立てていく必要性が示唆された。「コースについてのアンケート」で「内容への興味・関心があった」の評価が他に比べて低めであったことから、このことが言える。

また、「人間度得点」が、プログラム前に比べてプログラム後の平均値が高かったのは、過密なカリキュラムと感じている中で、全てのコースに参加した学生が人間関係を良くしたいという意識をもっていることや、人間関係を学ぶ講義等に熱心に参加している学生であることが推察できる。

## VII. 結 論

1. コースについてのアンケートは、全コースの全項目において、肯定的な意見が90%以上であった。自由記載も肯定的な意見が多く、各コースのテーマ・内容は良かったと言える。
2. 本プログラム参加者数は少なかった。学生が過密なカリキュラムと感じている状況で、任意参加のプログラムに沢山の学生参加を促すには、興味をかき立てたり、目に見えてメリットがあるプログラムを組み立てていく必要があることが示唆された。
3. 人間度得点は、プログラム前に比べてプログラム後の平均値が高かった。過密なカリキュラムと感じている中で、全てのコースに参加した学生が人間関係を良くしたいという

意識をもっていることが理由として推察された。

## VIII. おわりに

本プログラムは「島根県立大学魅力ある大学に向けた提案事業」の一環として行った。

## 引用文献

- 1) 柿本敏克 (1995) : 内集団バイアスに影響を及ぼす個人差要因, 社会心理学研究, 11, 94-104.
- 2) Kahn, M W (2008) : Etiquette-Based Medicine, New England Journal of Medicine, 1358 (19), 1988-1989.
- 3) 森仁実, 小野幸子, グレック美鈴, 会田敬志, 松山洋子, 出井美智子, 小田和美, 古川直美, 林幸子, 平山朝子 (2005) : 患者満足度調査からみたA病院における看護サービスのあり方, 岐阜県立看護大学紀要, 6 (1), 51-56.
- 4) 富澤美幸 (1997) : 本学看護科学生の看護に関する意識調査と社会への関心度, 足利短期大学研究紀要, 17, 57-64.

田原 和美・吉川 洋子・長島 玲子・高橋恵美子・山下 一也

# **Evaluation of Etiquette Education to New Nursing Student : The Practice Report in the 2009 Academic Year.**

Kazumi TAWARA, Yoko YOSHIKAWA, Reiko NAGASHIMA,  
Emiko TAKAHASHI and Kazuya YAMASHITA

Key Words and Phrases : Etiquette education, New nursing student, Manners.